

宮崎学園新聞

2025年
第四号宮崎学園
高等学校
新聞部

センバツ優勝校に敗れる

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
横浜	0	0	0	0	0	0	0	5	0	5
宮学	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1



序盤のリード守れず

全国の強豪校と宮崎県勢が対戦する第六十二回「SRC」招待高校野球大会が、五月十一日、十二日にかけて、宮崎市内二会場で開かれた。十二日には、本校野球部と今年三月にセンバツ高校野球大会優勝を果たした横浜高校との一戦が宮崎サンマリノスタジアムで行われ、宮崎学園は一对五で敗れた。試合は初回、宮崎学園が押し出し四球で先制点を奪うが、八回に先発・満川が横浜高校打線につかまり、逆転負けとなった。

最初に試合の流れを握ったのは宮学だった。一回の表、本校先発の満川が相手打線を三者凡退に抑えると、その裏、ヒットや死球で一死満塁とし、五番・新増が押し出しのフォアボールを選んで先制に成功する。しかし後続の二人は打ち取られ、追加点とはならなかった。

満川はその後好投を続け、七回を終えて許したヒットは三本。三塁を踏ませぬピッチングで横浜打線を無失点に抑えていた。

一方宮崎学園の攻撃は、五回にワンアウトから三番、高濱の三塁打で一気に追加点のチャンスとなるが、セーフティスクイズを相手に読まれ、高濱は三本間に挟まれアウト。その後のバッターも三振に倒れ、追加点を奪うことはできなかった。

▲試合終了後、笑顔で集合写真に写る両チーム選手

大きく試合が動いたのは八回の表、横浜高校の攻撃。先頭打者に安打を許すと、その後一死・二塁の状況から一番・江坂にレフト前ヒットを打たれ同点に迫いつかれる。ここで先発・満川が交代したが、横浜はたキャプテン、阿部葉太選手の犠牲フライによって逆転。その後も火のついた横浜打線を抑えることはできず、八回に五失点を喫した。宮崎学園は八回、九回と得点圏にランナーを進めるも、あ



(左) 先発の満川脩投手
(上) 三番手で登板した園井投手



と一本が出ず無得点。最後は横浜高校五番手の片山が高濱をセカンドゴロに打ち取って試合終了。一对五で敗北した。試合終了後は合同記念撮影が行われ、両校の選手が和やかな笑顔を見せた。

プロ注目選手 活躍見せる

三塁側観客席、宮崎日大高校の生徒たちによって結成された横浜高校応援団の中に、我が子のために全国各地から応援に駆け付けた横浜高校の選手の保護者達がいいた。

その中の一人、横浜高校のキャプテン・阿部葉太選手のお父様にインタビューを行った。阿部選手は愛知県の田原東部中から横浜高校に進学。

一年夏から中堅手としてレギュラー入りを果たすと、今年三月のセンバツ高校野球では、打率四割五分五厘を記録し、大会最多の十打点を挙げた。また低反発バットが導入され、柵越えのホームランが四本しか出なかった中で、同大会では甲子園のライトスタンドにホームランを打つなど、パワーもある好選手で、横浜高校のセンバツ優勝に大きく貢献した。

今回の試合前、お父様へのインタビューにて、「勝負強い打撃に期待している」とあったが、その言葉通り、六回から出場した阿部選手は二打席に立ってレフトへの二塁打、決勝点となる勝ち越しの犠牲フライを放つ活躍を見せた。すでに大学進学を明言している阿部選手。四年後のドラフトが今から楽しみだ。(伊東)



試合後、挨拶をする両軍選手。